

*Osaka Gas Foundation Of
International Cultural Exchange*

20th

目 次

ごあいさつ	1
テルブカ大学との懇談会	4
大阪ガス国際交流財団の歩み	5
助成を受けた方々のメッセージ	13
写真で見る20年の歩み	97
記事で見る20年の歩み	105
資料編	123
あとがき	157

テルブカ大学との懇談会 2012年10月



写真：左からIr. Nadia Sri Damajanti(副学長)、
Prof. Dr. Tian Belawati(学長)、
尾崎前理事長、Dr. Yuni Tri Hewindati(副学長)、
Ms. Dewi Mutiara(研究所長)

尾崎前理事長：本日は大阪ガスへようこそおいでくださいました。インドネシアとは大阪ガス国際交流財団OGFICE創設時から20年以上良好な関係を構築してきました。OGFICE理事長として、長年に亘るご協力に対して感謝申し上げます。引き続きインドネシアと日本の間の国際交流をすすめ、本財団がインドネシアの皆さん、特に学生の方々の未来に有益なものとなるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い致します。

Dr. Tian Belawati学長：テルブカ大学を代表して御礼申し上げます。当大学は公開大学であり、インドネシアで最大規模を誇る国立大学であります。OGFICEからは、江口専務理事がご在任の頃より援助いただいております。その助成金は主にマルチメディアプロダクションセンターで使わせていただいております、学習システムのクオリティー向上に貢献しています。その恩恵を、各地域の学校で教師をしながら当大学で学んでいる全国の学生が享受しています。大阪ガスがLNG契約を結ぶ地域であるカリマンタン、ボンタン、アチェといった地域でも、当大学の学生が学んでおります。OGFICEから助成していただけることは幸運なことだと思っています。更に、2004年に津波の被害に見舞われた際には、事務棟の建設ならびに事務機材購入に対する迅速な援助もしていただき、大変感謝しております。

尾崎前理事長：大阪ガスでは、日本とインドネシアとの関係をトータルに考えています。日本はインドネシアからLNG輸入という形で恩恵を受け、それによりインドネシアのLNG生産地の経済が潤うという、ギブアンドテイクの関係にあります。津波被害に対する支援のお話も出ましたが、日本もインドネシアから17年前の阪神大震災と昨年の東日本大震災の被害に対してサポートをいただいております。このように、インドネシアと日本は、必要なときにお互いを助け合える非常にいい関係にあります。そのような関係を維持するためにも、二国間の国際交流をする価値は高く、その交流にお役に立てることがあれば是非貢献させていただきたいというのが我々の基本的考えです。

Dr. Tian Belawati学長：そのようなOGFICEの姿勢には大変感謝しております。財団事務局から当大学と財団との今後の連携のあり方についてお話をいただきました。引き続き良い関係を継続していけるものと思っています。もしインドネシアにお越しの際には、是非当大学にも足を伸ばしていただければと思います。大学本部はジャカルタの南に位置しており、事務所はバリも含め全国にございます。大学施設とインドネシアをご案内させていただける機会があることを願っております。



大阪ガス国際交流財団の歩み

1. 財団法人大阪ガス国際交流財団の設立

大阪ガス国際交流財団は、南東アジアや大洋州地域の天然ガス産出国に対して「学校等への教育機材の助成」「学生等への奨学金の支給」「天然ガス関連技術に関する試験研究助成」などの事業を行うことにより、ガス事業の健全な発展を図り、もって我が国産業の進展に寄与するとともに国際親善に資することを目的に、大阪ガス(株)が基本財産3億円を出損して1992(平成4)年9月に設立しました。平成4年9月16日、外務大臣と通商産業大臣の許可を得て、財団法人大阪ガス国際交流財団が発足しました。その後、大阪ガス(株)から寄付金を、平成5年度に3億円、平成6年度に2億5千万円を受け、基本財産は8億5千万円となりました。

大阪ガスは、都市ガスの原料である天然ガスを、アジアやオセアニアの天然ガス産出国から輸入していました。国際貢献

の視点から、また、長期にわたり安定して天然ガスを確保しガス事業の健全な発展をはかるために、これら天然ガス産出国との相互理解をより一層深めることが重要です。このような観点から、大阪ガスは大阪ガス国際交流財団を設立し、学校教育や研究への助成を行うことにしました。交流の考え方は「①教育・学術分野での助成を通して人材の育成に貢献する」「②民間企業として大阪ガス特性を発揮した活動を展開する」「③長期的に継続する活動を行う」を基本にして、助成事業を開始しました。

平成4年度は、初年度の事業として、大阪ガスへの最大の天然ガス輸出国であるインドネシアの学校を対象に教育機材や奨学金の助成並びに大学への試験研究助成を行いました。教育機材を2地区12校の小学校・中学校・高校と1大学へ、奨学金を2地区の高校と2大学へ、大学への試験研究助成を2大学へ贈呈しました。12月21日にジャカルタで、23日にLNG出荷基地のある2地区(カリマンタン島東カリマンタン州…バダク基地、スマトラ島北アチェ州…アルン基地)でそれぞれ贈呈式を行いました。



ジャカルタでの初回贈呈式

2. 助成事業の推移

財団設立以来、インドネシアを対象とした助成事業を続けて来ました。1999(平成11)年に、マレーシア(サラワク州)への助成を開始しました。2002(平成14)年には、財団設立10周年記念の特別助成を例年の助成事業に加えて行いました。2004(平成16)年から、スマトラ沖大地震に対する特別支援をインドネシア・アチェ地区に行いました。

1) インドネシアへの助成

① 教育機材の助成

- ・ LNG生産地の東カリマンタン州ボンタン地区、アチェ特別州ロスマウエ地区の小学校、中学校、高校に毎年各種の教育機材を助成しました。ロスマウエ地区への教育機材助成は、アチェ紛争の影響を受け平成14年度をもって終了しました。
- ・ 平成4年から平成6年は、ダルマプルサダ大学(東ジャカルタ)へ教育機材を助成しました。
- ・ 平成16年から、テルブカ国立大学に遠隔地教育機材(マルチメディア制作用機材)の助成を開始しました。テルブカ大学はインドネシアで唯一の公開大学であり、学生数は現在約63万人、教職員数1,800人、地方研修支所38か所(31地域)で、その受講生のうち約60%が遠隔地の学校の現職教員であり同国の教員レベル向上に大きな役割を果たしています。



バイク三輪車式移動図書館

- ・平成16年には、スマトラ沖大地震による津波被害を受けたバンダアチェ地区への支援について、ジャンボミンダ財団から一般の支援が届き難い教育現場の声を聞き取り、実情に沿った学習機材（図書類）をバイク三輪車式移動図書館という形で同財団に助成しました。また、アジア防災センター他との協同で「津波発生や緊急時対応」を纏めたインドネシア語のカラー絵テキスト作成や現地での防災教育に助成しました。その後継続して、図書類の助成を行ってきました。



ボンタン地区の贈呈式



バンダアチェ地区の図書贈呈

② 試験研究助成

- ・平成4年からバンドン工科大学とボゴール農業大学へ、平成5年からインドネシア大学へ試験研究助成を行ってきました。助成対象の研究分野は、天然ガス有効利用や環境関連の分野で、毎年各大学の委員会選考結果を財団で評価して決定した研究テーマに助成し、現地で贈呈式並びに報告会を行って意見交換をしてきました。研究テーマ毎に最終報告書が財団に提出され、これらの成果を纏めた論文や報告は、各国や日本での報告、学会誌への投稿や掲載がされています。

③ 奨学金の支給

- ・平成4年から東カリマンタン州ボンタン地区およびアチェ特別州ロスマウエ地区の高校生、ムラワルマン国立大学（サマリダ）およびジャクワラ国立大学（バンダアチェ）の大学生に継続して奨学金を支給してきました。平成19年からは東カリマンタン州ボンタン市立夜間大学の学生にも奨学金を支給してきました。奨学生の選定は、現地の教育委員会や大学の選考委員会による選考結果を財団で評価して決定してきました。毎年各助成先を訪問して、現地で贈呈式並びに意見交換会を行って、現地の声や要望を聞いて実情に沿った奨学金支給を継続してきました。今では各々の市や大学の恒例助成事業として、多くの方々から高い評価と感謝を受けています。



ボンタン地区の奨学金贈呈式



ロスマウエ地区の奨学金贈呈式

④ 研修の助成

- ・平成18年から、テルブカ大学のメディア教材を制作する教員やスタッフを対象に、(財)日本国際協力センター（沖縄研修支所）などで行うメディア制作技術研修に対して助成しました。
- ・平成22年から、インドネシア大学大学院日本地域研究科の大学院生2名を(独)国際交流基金関西国際センターで行う43日間の日本語短期研修に招聘して本研修を助成しています。期間中に、本研修に参加した各国の受講生を含めて大阪ガス「DILIPA千里」「泉北製造所・ガス科学館」で見学会を行い、国際交流を深めました。

⑤ その他の助成

- ・平成8年11月に、ボンタン地区とロスマウエ地区に絵本童話「恐竜の子コモドの旅」(インドネシア語と日本語版)を助成しました。
- ・平成9年10月に、財団設立5周年を記念して試験研究助成を行っている3大学を中心としたセミナーをジャカルタで行いました。
- ・平成10年11月に、インドネシア大学の経済的に困窮している学生を救済するため、学生30人に助成しました。
- ・平成12年8月に、アチェ紛争により焼失したロスマウエ地区の学校へ机や椅子などの機材を助成しました。
- ・平成14年に特別助成として、ロスマウエ地区に設立された教育支援を目的とする「アチェ大阪教育文化財団」の基金を助成しました。また、インドネシア大学、バンドン工科大学、ボゴール農業大学、ムラワルマン大学、シャクワラ大学、ボンタン地区、ロスマウエ地区に「10周年特別助成」を行いました。
- ・平成16年から、スマトラ沖大地震に対する特別支援をアチェ地区のテルブカ大学、シャクワラ大学、ジャンボミンダ財団に行いました。

2) マレーシアへの助成

① 教育機材の助成

- ・平成16年から、サラワク州遠隔地の小学校40校に対して、マレーシア教育省と連携して、図書、学習用コンピューター、補助教材等を助成してきました。マレーシア教育省を訪問して意見交換を行ってきました。マレーシアの遠隔地(僻地)の学校は30%(約700校)がサラワク州に点在しています。これらの学校は、交通手段が劣悪で貧困な地域にあり、生徒が学校に通うことも厳しく教員レベルも低いことから、マレーシア教育省は遠隔地教育の充実を推進しています。この助成により、同国遠隔地の生徒達の教育機会拡大と教員レベル向上に貢献することを目指して継続してきました。

② 試験研究助成

- ・平成19年から、天然ガスの産出地であるサラワク州の新設大学であるサラワク大学(平成4年設立)へ試験研究助成を行ってきました。助成対象の研究分野は、天然ガス有効利用や環境関連の分野で、毎年同大学の委員会選考結果を財団で評価して決定した研究テーマに助成し、現地で贈呈式並びに報告会を行って意見交換してきました。研究テーマ毎に最終報告書が財団に提出されています。

③ 奨学金の支給

- ・平成12年から、サラワク大学工学部の学生に継続して奨学金を支給してきました。奨学生の選定は、大学の選考委員会による選考結果を財団で評価して決定してきました。大学を訪問して、贈呈式並びに意見交換会を行って、学生の声や要望を聞いて実情に沿った奨学金支給を継続してきました。今では大学の恒例助成事業として、多くの方々から高い評価と感謝を受けています。



JF関西国際センターの日本語短期研修



サラワク大学の研究者と意見交換会



サラワク大学の奨学金贈呈式

④ 研修の助成

- ・平成11年から平成13年に、サラワク大学工学部の教員を対象に都市ガス関連技術の研修を日本で行いました。
- ・平成20年から、マレーシア教育省と連携して、サラワク州遠隔地において教育教材を助成した小学校の教職員を対象に、その教材のより有効な活用方法習得を目的に行う教職員レベルアップ研修及び小学校の生徒自身が参加する図書学習キャンプに対して助成してきました。

3) インドネシア、マレーシア国交樹立50周年事業に認可・登録

- ・2008年に、「バンダアチェ地区への教育機材助成」「奨学金」「日本語短期留学」が、国交樹立50周年「日本・インドネシア友好年2008年記念事業」として認可、登録されました。
- ・2007年に、マレーシア教育省と連携した「サラワク州遠隔地校に対する図書等の助成事業」が、国交樹立50周年「日本・マレーシア友好年2007年記念事業」として認可、登録されました。

3. 公益財団法人へ移行

2008(平成20)年12月に新公益法人制度が施行され、すべての公益法人は5年以内に公益財団法人もしくは一般財団法人を選択し、移行することが義務づけられました。早速、公益財団法人への移行に必要な作業にとりかかり、最初の評議員選定委員会を開催して最初の評議員を選任、定款変更案や新たな機関設計の議決を経て、平成22年6月18日に公益財団法人への移行申請を内閣府に提出しました。同年9月3日の公益認定委員会で答申され、9月22日に内閣総理大臣の認定書交付を受けて10月1日に移行登記を行い「公益財団法人大阪ガス国際交流財団」が発足しました。

4. 新たなスタート

2012(平成24)年10月から新たな助成国として東ティモール民主共和国において、国際協力機構(JICA)の協力を得て教育助成事業を開始しました。東ティモールでのJICAと日本企業による人材育成の取り組みは国内初です。本事業では、東ティモール国立大学工学部の学生のうち毎年20人を対象とする奨学金の支給と、同大学工学部の教員を対象に毎年2人を日本に受け入れて短期研修を行います。当事業は、日本・東ティモール外交関係樹立10周年記念平和年事業「2012年日本・東ティモール友情と平和の年」に認定されました。

東ティモール民主共和国は独立後10年の最も新しい国であり産業や教育等の人材が不足していることから、人材の育成が最重要課題となっています。日本政府は、アジア太平洋地域の平和と安定を図るため東ティモールの民主国家建設に対して長年にわたり支援活動を行ってきており、同国は天然ガスや石油の資源を保有していることから我が国にとって重要な国です。大阪ガス国際交流財団は、本事業を通して東ティモールの人材育成に貢献するとともに、日本と東ティモールとの友好関係強化と国際親善に取り組んでいきます。



図書締結式(左から2人目がグテレス学長)



東ティモール大学の初回奨学金贈呈式

インドネシア、マレーシア、東ティモールの助成先



(参考)

平成4年度 助成

インドネシアへの助成内容

<約1,352万円>

1) 教育機材助成

<約912万円>

① 東カリマンタン州ボンタン地区

小学校、中学校、高校への教育用図書、地図、スポーツ用品、救急箱セット、タイプライター、謄写版、人体標本、紙とじ機等

② 北アチェ州ロスマウエ地区

中学校、高校への物理・生物・化学実験用機器、タイプライター等

③ ダルマプルサダ大学(ジャカルタ)へのパーソナルコンピューター、OHP、ハードディスク、レーザー等

2) 奨学金支給

<約198万円・計84名>

① ボンタン地区

高校生、大学生

10名

② ロスマウエ地区

高校生

14名

③ ムラワルマン大学

大学生

35名

④ シャクアラ大学

大学生

25名

3) 試験研究助成

<約242万円・計6件>

① バンドン工科大学

3件

② ボゴール農業大学

3件

平成24年度 助成

インドネシアへの助成内容

<約1,582万円>

1) 教育機材助成

<約325万円>

① ボンタン地区小学校、中学校、高校、大学へのスポーツ用具、音楽用具、コンピュータ等

② テルプカ大学への教育機材助成を通じた遠隔地教育の支援

③ バンダアチェ地区の小学校を巡回する移動図書館への助成

2) 奨学金支給

<約540万円・計430名>

① ボンタン地区 高校生、大学生

145名

② ロスマウエ地区 高校生

100名

③ ムラワルマン大学 大学生

80名

④ シャクアラ大学 大学生

40名

⑤ バンダアチェ地区 小学生、中学生、高校生

65名

3) 試験研究助成

<約382万円・計12件>

① インドネシア大学

4件

② バンドン工科大学

3件

③ ボゴール農業大学

5件

4) 研修助成

<約335万円・計6名>

① 日本語短期留学研修 インドネシア大学

大学院生2名

② マルチメディア制作研修 テルプカ大学

教職員4名

マレーシアへの助成内容

<約511万円>

1) 教育機材助成

<約35万円>

サラワク州遠隔地校40校に対する学習用コンピュータ、図書類の助成

2) 奨学金支給

<約211万円>

サラワク大学 大学生

12名

3) 試験研究助成

<約129万円>

サラワク大学

7件

4) 研修助成

<約136万円>

マレーシア教育省によるサラワク州遠隔地校の教職員・生徒研修への助成

東ティモールへの助成内容

<約95万円>

1) 奨学金支給

<約95万円>

東ティモール大学 大学生

20名

Osaka Gas Foundation of International Cultural Exchange's completion of its educational grants for the year 2012 in Indonesia, Malaysia and Timor-Leste

Osaka Gas Foundation of International Cultural Exchange, OGFICE, (Mr. Takashi Sakai, Chairman of the Board, Advisor of Osaka Gas Co. Ltd.) concluded all programs for the year 2012. Financial contributions were made to schools, universities, and academic institutions in Indonesia, Malaysia and Timor-Leste. The annual contribution for the year 2012 amounted to approximately twenty one million, eight hundred and eighty thousand yen (¥21,880,000). Since its establishment in 1992, Osaka Gas Foundation has donated a total of close to three hundred and eighty two million yen (¥382,000,000).

Osaka Gas Co. Ltd. established OGFICE in order to increase mutual understanding between natural gas-producing countries and Japan in South-East Asia and Oceanian region in 1992. OGFICE has continued its grant activities in the educational field for two decades. In October, 2010, the foundation was authorized as a public interest foundation by PICC, Public Interest Corporation Committee, a council in Japanese Cabinet Office.

The volume of contributions in Indonesia amounted to fifteen million, eight hundred twenty thousand yen (¥15,820,000) in the year 2012. The content of OGFICE's grants contained educational equipment, scholarships, research grants and training. Scholarships were provided to four hundred thirty students and the research grants went to twelve courses of energy science and environmental science in University of Indonesia, Institute of Technology Bandung and Bogor Agricultural University. The training programs were conducted in cooperation with The Japan Foundation in Osaka*1. The training managed by The Japan Foundation involved the forty three-day course for Japanese Language Acquisition, and two Indonesian students selected by OGFICE participated. The training involved a course for four technical staff from Terbuka University; a national open university in Jakarta, to learn multimedia technology for producing educational materials. *1The Japanese-Language Institute, Kansai, The Japan Foundation

In Malaysia, five million, one hundred ten thousand yen (¥5,110,000) was allocated for educational equipment, scholarships and training. Grantees of educational equipment and training programs were students and teachers in forty elementary schools in rural areas in Sarawak State. Scholarships and research grants were provided to twelve students and some researchers in Sarawak University continuing on from 2000.

In Timor-Leste, nine hundred fifty thousand yen (¥950,000) was allocated for scholarship in 2012. And the training involved a two-week course for two lecturers from the National University of Timor-Lorosa'e, to learn Japanese energy technology in July 2013.

OGFICE believes that the continuation of these endeavors on a yearly basis is essential for maturing friendships with the grantees and their countries in South-East Asia and Oceania region.

Attached

I. Operations in 2012 <total amount about ¥21,880,000>

1. Grants to Indonesia <about ¥15,820,000>

1) Educational Equipment <¥3,250,000>

① Elementary schools, junior or senior high schools and a college in Bontang and the surrounding area
(Sporting goods, musical instruments, personal computer etc.)

② Terbuka University

(Multimedia tools for production of educational materials which are transmitted by correspondence or Internet.)

③ Elementary schools in Banda Aceh and the surrounding area

(Books donated to mobile libraries previously granted by OGFICE)

2) Scholarship <¥5,400,000 / 430 students>

① High schools and Universities in Bontang and the surrounding area 145 students

② High schools in Lhokseumawe and the surrounding area 100 students

③ Mulawarman University 80 students

④ Syiah Kuala University 40 students

⑤ Elementary schools, junior or senior high schools and universities in Banda Aceh and the surrounding area 65 students

3) Research Grant <¥3,820,000 / 12 courses>

① University of Indonesia 4 courses

② Institute of Technology Bundang 3 courses

③ Bogor Agricultural University 5 courses

4) Training Grant <¥3,350,000 / 6 persons>

① Short-term Japanese Language training
(2 students from University of Indonesia)

② Technical training for production of multi media educational materials
(4 technical staff from Terbuka University)

2. Grants to Malaysia <about ¥5,110,000>

1) Educational Equipment <¥350,000>

(Reading material and educational devices for 40 elementary schools in rural areas in Sarawak)

2) Scholarship <¥2,110,000 / 12 students>

(12 students in Sarawak University)

3) Research Grant <¥1,290,000 / 7 courses>

(7 courses of research in Sarawak University)

4) Training Grant <¥1,360,000>

(Reading Camp, an educational workshop, for teachers and students in schools provided with the educational equipment)

3. Grants to Timor-Leste <about ¥950,000>

1) Scholarship <¥950,000 / 20 students>

(20 students in the National University of Timor- Lorosa'e)

II. Outline of OGFICE

OGFICE was established through an endowment from Osaka Gas Co. Ltd. in 1992 for the purpose of managing contributions. Ever since the establishment, it has followed a path of the public interest activities steadily in the field of education as a member of the CSR Division of the Osaka Gas group. Its grantees are natural gas-producing countries in South-East Asia and Oceanian region. Grants have amounted up to three hundred and eighty two million yen (¥382,000,000) during those twenty years. OGFICE's community-based programs have been highly praised by residents and those concerned in local districts.

1. Establishment: on 16th September, 1992
(Authorization as a public interest foundation: in October, 2010)
2. Endowment : ¥887,000,000 as of March, 2012
3. Purpose and activities : To increase mutual understanding between natural gas-producing countries and Japan in
South-East Asia and Oceanian region
 - 1) To provide educational equipment and materials, and to provide scholarships to schools and students
 - 2) To provide scientific research grants in academic fields
 - 3) To provide training grants to students, teachers, engineers and researchers
 - 4) To conduct other activities in line with the foundation's philosophy and purpose
4. Result of operations for twenty years since the foundation was established in 1992 (1992-2012)
: about ¥382,000,000
 - 1) Provision of educational equipment about ¥126,000,000
 - 2) Provision of research grants about ¥100,000,000 / 269 themes
 - 3) Provision of scholarships about ¥110,000,000 / 6,929 students
 - 4) Provision of training grants about ¥29,000,000
 - 5) Other grant activities about ¥17,000,000